

博多どんたくパレード隊の三女神を大募集

2014年04月01日

～世界遺産登録をPR～

市は、世界遺産登録を目指すまち・宗像市をPRするため、世界遺産登録応援「むなかた三女神記隊」を結成して、第53回博多どんたく港まつりのどんたくパレードに出場。パレード隊の主役・三女神を募集します。出場日は5月3日（土・祝）です。友達同士や姉妹など、3人1組で申し込んでください。

●**募集人数** 3人（女性）

●**応募要件** 次の全てに該当する人

▽市に在住、通勤、通学する人

▽保護者の同伴が必要でない小学生以上の元気な人

▽簡単な振り付けを覚えて笑顔で参加できる人

▽リハーサルに参加できる人

●**内容** 三女神の衣裳を着てパレード

*きらり姫ではありません

●**リハーサル** 4月27日（日）9：00～12：00（メイトム宗像・多目的ホール）

●**参加料** 無料

●**申込締切日** 4月18日（金）

●**申込必要事項** （1）住所（2）氏名（3）年齢（4）職業（学生は学校名・学年）（5）簡単なPRと3人で写った写真1枚

*応募者多数の場合は書類選考し、結果を送付

●**申込先** 公益社団法人宗像青年会議所

▽郵送＝〒811-3405／須恵1-4-1

▽FAX（39）7167

▽メール mail@munakatajtc.com

▽窓口



きらり姫と一緒にパレードを盛り上げましょう（昨年の様子）

2014年04月15日

世界遺産登録に向け7月に推薦書原案を提出

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、平成21年1月にユネスコ世界遺産暫定リストに記載されました。それから5年、宗像市は、福岡県、福津市と共に国内外の専門家を交え、資産価値の証明や資産を守るための緩衝地帯の設定について、研究・議論を重ねてきました。そして、いよいよ今年の7月、文化庁に世界遺産登録のための推薦書原案を提出します。



世界遺産には、文化遺産、自然遺産とその両方を兼ね備える複合遺産の3種類があり、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は文化遺産での登録を目指しています。

平成24年から、1つの国がユネスコ世界遺産センターに提出できる文化遺産の推薦書は、1年に1件となりました。国内の暫定リスト記載遺産は9件あります。今年7月、日本政府は推薦書原案を提出した遺産の中から推薦遺産を決定する予定です。今年、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の推薦が決定された場合、平成27年に、世界遺産センターが依頼したイコモス（国際記念物遺跡会議）が現地調査に訪れ、平成28年の世界遺産委員会で

登録の可否が決定します。

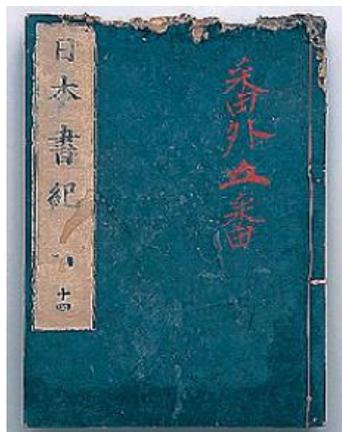
世界遺産としての価値



沖ノ島では、4世紀後半、島の巨岩の上を祭場とした国家的祭祀が、その後500年にわたり、全国的にみられる露天での祭祀へと移り変わっていく遺跡が、今に残っています。この露天国家的な祭祀（さいし）が始まり、その後約5世紀は、大島の中津宮や田島の辺津宮でも同時期に実施されていて、現在それぞれに社殿が建てられ、信仰が続いています。沖ノ島で始まった自然信仰から日本固有の信仰への移り変わりが確認できる場所は、世界にたった1つ、ここ宗像市しかありません。

岩上祭祀遺跡

古事記・日本書紀が語る宗像の重要性



古代、日本が国家を成立させ、国家として成熟させていくためには、大陸の優れた技術や文化が必要不可欠でした。このため、日本と大陸との海を行き来しなければならず、大陸と宗像を結ぶ海の道は、日本にとって最も重要でした。

当時、大陸と日本の玄関口であった宗像がどれほど重要だったのか、日本最古の歴史書から読み取ることができます。日本書紀には、日本の総氏神といわれる天照大神（あまてらすおおみかみ）が、娘神の宗像三女神に「大陸への海路に降りて、歴代天皇を助け、天皇より篤（あつ）い祭を受けられよ」と命令したと書かれ、古事記には「宗像三女神は宗像氏らが祭る神」と書かれています。沖ノ島で出土した神へ捧げられた宝物が、一級品ばかりであったことから重要性が伝わってきます。

日本最古の歴史書「日本書紀」

構成資産の紹介

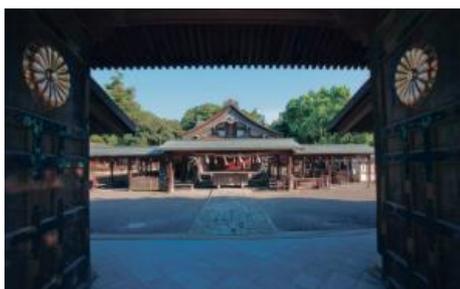
【沖ノ島】



神宿る島「沖ノ島」

古代からあつい信仰で守られてきた神宿る島。神に捧げられた数々の貴重な宝物は、約8万点が国宝に指定されています。

【宗像大社】



三女神をまつる宗像大社（辺津宮）

沖津宮、中津宮、辺津宮からなる宗像三女神をまつる神社で、古代から現代までの祭祀の発展を伝える厳かな信仰の場です。

【新原・奴山古墳群】



新原・奴山古墳群

航海技術にたけた宗像氏は、大陸と日本との水先案内を務め、沖ノ島の祭祀も担いました。海を望む台地に築かれた古墳群は、この海域を支配した一族の象徴です。

ラッピングバスとボランティア ガイドで宗像の歴史を紹介

市では、トヨタ自動車九州と協定を結び、さまざまな連携事業を実施しています。その一環として、トヨタ自動車九州が自動車の塗装技術を生かし、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」をテーマに市所有バスへラッピング。今年3月、完成しました。

作業は、写真を見ながら大きなフィルムにスプレーガンで描きます。側面には沖ノ島とみあれ祭、後方には沖ノ島で出土した金銅製龍頭と三角縁神獣鏡を描きました。

ラッピングの完成記念と海の道むなかた館開館2周年イベントを併せ、4月26日に東郷駅、海の道むなかた館、神湊をシャトル運行しました。バスに乗った吉住明さん(41歳・福岡市)、明翔(あきと)くん(3歳)親子は「宗像の魅力が1台のバスに凝縮して描かれていますね。乗り心地がよく、宗像の景色も楽しめました」と満足した様子でした。

同日、宗像歴史観光ボランティアの会による宗像大社の無料ガイドツアーも開催。ツアーに参加した安部司さん(40歳・愛知県)は「父が宗像市出身で、宗像大社にも何度か来ていて、宗像の歴史もある程度知っているつもりでした。ガイドさんはネタが豊富ですね。楽しく宗像を深く知ることができよかったです」。神宝館を見学した高田一人(かずと)さん(38歳・佐賀県)は「8万点もの国宝が神宝館に所蔵されていることを初めて知りました。展示品を分かりやすく解説してもらい、宗像の歴史の深さがよく分かりました」と、それぞれ感想を笑顔で話してくれました。



ラッピングしたバスを楽しんだ吉住さん親子



ガイドの話を熱心に聞く参加者 (宗像大社・神宝館)

2014年06月15日

宗像・沖ノ島と関連遺産群 博多どんたくで世界に誇る宗像市をアピール



市では、宗像・沖ノ島世界遺産市民の会に所属するコミュニティ、青年会議所、宗像大社氏子青年会、宗像農協、宗像漁協、宗像市商工会、宗像観光協会の団体のみなさん、総勢約120人で、世界遺産登録応援「むなかた三女神記」隊を結成。5月3日に開かれた博多どんたく港まつりで世界に誇る遺産を持つ宗像市を官民一体となってアピールしました。

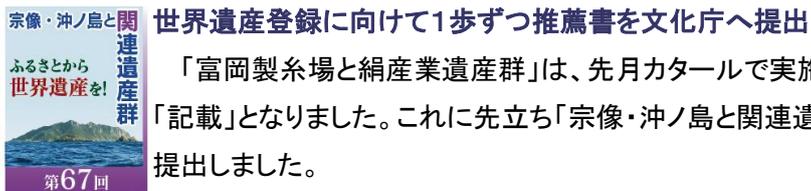
パレード隊は、三女神や神職など「宗像・沖ノ島と関連遺産群」のメイン資産の宗像大社をイメージさせる「和」を基調とした衣装でそろえ、沿道からの大きな声援を受けながら約1・3キロをパレードしました。

神職の衣装で参加した宗像・沖ノ島世界遺産市民の会会長の前田誠さん(赤間)は「どんたくには毎年、約200万人が来場します。多くの来場者に歴史ある宗像市をアピールできた良いパレードでした。『宗像・沖ノ島と関連遺産群』の世界遺産登録に向け、今後も市民の会の各団体と共に盛り上げていきたいです」と語りました。



三女神に扮(ふん)した子どもたちもパレードに参加し宗像市をアピール

2014 年 07 月 15 日



世界遺産登録に向けて1歩ずつ推薦書を文化庁へ提出

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、先月カタールで実施された世界遺産委員会で、世界文化遺産リスト「記載」となりました。これに先立ち「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の推薦書(素案)を、4月18日に文化庁へ提出しました。

本遺産の価値は、沖ノ島を中心とした「海に生きる宗像の人々の信仰の遺産」としてまとめられました。

平成28年の登録を目指して進めてきた本遺産。同24年から、文化遺産は1つの国から1件の推薦書提出となったことから、日本政府の推薦を受けること自体が狭き門となっています。

同28年に登録を目指す遺産は、本遺産の他に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」「北海道・北東北の縄文遺跡群」などがあります。その中から文化庁の審議を経て、9月末に1件が選定され、日本政府が最終決定し、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書が提出されます。

昨年は、文化庁の審議会で「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が推薦書を提出できると判断されていましたが、日本政府は「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」の提出を決定したという経緯があり、来年は、この産業革命遺産の登録の可否が決まります。

文化庁が推薦書を提出できる遺産かどうかを判断するには、本遺産の価値を明らかにする証明と、それをどのように保存し、管理していくかという実行性を重視しています。今後、さらに市民のみなさんの本遺産に対する関心と、保護の意識が向上することで、世界遺産登録が1歩ずつ近づきます。



富岡製糸場と絹産業遺産群の登録が決定した第38回世界遺産委員会

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界文化遺産登録への再チャレンジ

2014年08月01日

宗像市では、県、福津市と共に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指し、4月18日、推薦書素案と包括的保存管理計画素案を文化庁に提出していました。7月10日、文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会での審議の結果、本年度の世界文化遺産推薦候補に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が選定されました。

*文化遺産の推薦は平成24年から1カ国につき年間1件となりました

【谷井博美宗像市長のコメント】

今年の推薦遺産に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が選考されず、残念な結果となりました。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、平成24年から推薦書素案を提出していて、昨年は最終選考まで残り、今年の選考で強力な競争相手でした。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界的価値は、国内外の専門家からも高く評価されています。今後は推薦書素案などを整理しながら、県、福津市と力を合わせ、来年に向けて再チャレンジしていきます。

今後も世界遺産登録活動を通して、宗像の歴史・文化を国内外の多くの人に認知・理解してもらい、資産の周辺環境を含め貴重な文化遺産を確実に次世代に引き継いでいきたいと考えています。

9月はオガチマンス～世界遺産月間～

2014年08月15日



「みあれ祭」に始まる宗像大社秋季大祭が、毎年10月1日～同3日に実施されます。秋季大祭前の9月をオガチマンスとし、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」をPRするさまざまなイベントを開催します。「オガチ」は沖ノ島に生息する「オオミズナギドリ」の俗称です。

オオミズナギドリ通称「オガチ」

9月の毎週土・日曜日、祝日

宗像大社辺津宮・神宝館無料ガイドツアー ～もっと宗像の歴史を知ろう～

【Aコース 宗像大社境内(50分)】

御造営中の本殿・拝殿、宗像三女神降臨の地とされる高宮祭場などを巡ります。

●**出発時間** 10:00～14:45の間で約30分おき

* 詳細は問い合わせを

●**受付・集合場所** 第一鳥居前(祈願殿横)

【Bコース 神宝館(45分)】

宗像大社の、古代から近代までの歴史を物語る宝物が展示されています。

* 別途、入館料必要

* 出光美術館(東京)での宗像大社国宝展開催のため、期間中、一部の国宝の展示がありません

●**出発時間** 10:00～15:30の間で約30分おき

* 詳細は問い合わせを

●**受付・集合場所** 神宝館1階受付カウンター

【AB共通事項】

●**定員** 各回先着15人

* 事前申込不要。出発時間の5分前集合



ガイドの説明を聞きながら楽しく境内を巡ります



沖ノ島で出土した数々の国宝は必見です

9月7日(日)

みあーれ川下り大会

玄海中学校恒例行事「筏競漕(いかだきょうそう)」をみんなで楽しみましょう。昔、海と内地を舟で行き来した釣川を、筏で下る大会です。家族や友人と筏を作って参加してください。参加無料。

- 時間 9:30~12:00(受付は9:00)
- 場所 釣川(玄海中学校前~さつき橋)
- 時間 9:30~12:00(受付は9:00)
- 参加要件 1チーム3~5人(幼児不可、小学生は保護者同伴)
- 定員 20チーム
- 申込締切日 8月29日(金)
- * 集合は玄海中学校



アイデアあふれる筏で参加してください(玄海中学校の生徒)

9月13日(土)

市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記~エピソード1~」

心の瞳で読む本を手にした男の子が、古代ムナカタにタイムスリップする物語。宗像の子どもたちの迫真の演技を、ぜひ観にきてください。

- 時間 ▽第1回=開演 11:00
▽第2回=開演 15:00
- 場所 宗像ユリックス・イベントホール
- 前売り券 大人 1,000円(当日 1,200円)
- * 中学生以下無料
- * 前売り券は、各コミセン、宗像ユリックスで販売



市民で作り上げる感動の舞台

9月20日(土)

「はるかな島のものがたり」おはなし会



沖ノ島を題材にした絵本のおはなし会です。大スクリーンに絵本を映し出しながら朗読します。

●時間 15:15～15:35

●場所 海の道むなかた館・3Dシアター

* 事前申込不要

9月21日(日)

体験型謎解き脱出イベント

「宗像大社の秘宝を探せ！～神やどる島の秘宝の謎～」

地図を片手に境内に隠されたヒントを探し、秘宝の謎を解き明かそう！

●時間(2時間程度)

▽基本コース=9:00～10:00 受付

▽チャレンジコース=13:00～14:00 受付

* いずれも約2時間、同様の内容

●対象 小学生以上

* 小学4年生未満は保護者の同伴を

●定員 各回先着 50 組(1組5人まで)

* 事前申込必要

●参加料 1組 500 円



家族、友人同士で楽しめます

9月27日(土)～10月3日(金)

神迎え・灯笼の道

神湊から宗像大社辺津宮へと続く神の道。

玄海コミセンから宗像大社辺津宮の間を、市民手作りの灯笼で飾ります。



温かみのある市民手作りの灯笼

9月30日(火)

みあれ祭前夜祭花火大会

[* 詳細はこちらをクリック](#)



10月1日(水)~同3日(金)

海の道むなかた館「プロジェクションマッピング」

話題の3D プロジェクションマッピングを海の道むなかた館で上映。楽しくてあっと驚く宗像三女神をテーマにした映像が建物に映し出されます。

●時間 19:30~21:00



主催者からのメッセージ

私たちが住む宗像は、世界に誇れる歴史あるまちです。その歴史を感じられるさまざまなイベントを計画しました。この機会に、世界が認める宗像を多くの人に知ってもらいたいです。

宗像・沖ノ島世界遺産市民の会会長

前田誠さん

【宗像・沖ノ島世界遺産市民の会構成団体】

市コミュニティ運営協議会(12地区)、宗像市老人クラブ連合会、宗像青年会議所、宗像大社氏子青年会、むなかた歴史を学ぼう会、宗像歴史観光ボランティアの会、宗像観光協会、宗像市商工会、宗像農業協同組合、宗像漁業協同組合

宗像・沖ノ島と関連遺産群 ふるさとから世界遺産を 第 69 回

2014 年 09 月 15 日



3Dアニメで見る「宗像・沖ノ島と関連遺産群」全5話完結

リアルとアニメで宗像の昔を体感

海の道むなかた館で放映中の3Dアニメは、今年 10 月、最終話が完成します。

原作は、『季刊邪馬台国』という雑誌に、平成 24 年 7 月号から同 26 年 4 月号にかけて連載したマンガ「海の民宗像～玄界灘の守り神～」です。

通常放映している「聖なる島・沖ノ島」「宗像大社の神事」「沖ノ島の自然」の実写版は、学術的な観点から大人向けに制作したもので、特に、通常渡ることのできない沖ノ島をリアルに感じてもらうことができます。それに対して3Dアニメは、世界遺産登録を目指している「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の中で、沖ノ島での祭祀(さいし)が実施される以前の宗像の様子から祭祀が終わり、沖津宮、中津宮、辺津宮の三宮が成立するころまでの情景を、子どもが理解できるように制作しました。内容は、フィクションですが、これまでの調査結果に基づいて編集しています。

1話1話に引き込まれる3Dシアター

作品の一部を紹介します(下表参照)。みなさん、全話をぜひ見てください。

3Dシアターは無料です。

	タイトル	内 容
第1話	玄界灘の守り神	田熊石畑(たぐまいしはたけ)遺跡で実際に生活をしてきた人々が生きていた弥生時代を中心に、宗像を取り巻く情勢を描いています。
第2話	海人(あま)の都 ムナカタ	2話連続で弥生時代から古墳時代に移り変わるころの宗像を描いています。宗像地域に前方後円墳が築かれる契機となった地方豪族宗像氏とヤマト王権との出会いを、侵略ではない絶妙
第3話	ムナカタとヤマトを つないだ海人	な交渉で服属関係となっていく様子を描いています。
第4話	玄界灘の軍神	沖ノ島の岩陰祭祀の時期を中心に、「ヤマト王権」と親密な関係にあった韓国「百濟」、九州地方の一大勢力であった「筑紫の君磐井(いわい)」と親密な関係にあった韓国「新羅」、その板挟みとなっていた宗像氏のとった行動を描いています。
第5話	海の民ムナカタ	大海人(おおあまの)皇子(後の天武天皇)が、幼少のころに宗像君徳善(むなかたのきみとくぜん)の娘「尼子娘(あまこのいらつめ)」と出会います。その後、天武天皇の命で、日本最古の歴史書と呼ばれる「古事記」の編さんに協力する尼子が、自身の生い立ちと宗像に関する記事について語り始めます。



大海人皇子と尼子娘の出会い(3Dシアターの一場面)

宗像・沖ノ島と関連遺産群 ふるさとから世界遺産を 第70回 世界遺産を目指し東京で交流会

2014年10月15日

世界遺産を目指し東京で交流会

宗像市は、県と福津市と共に「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議を組織し、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指して、さまざまな取り組みを実施しています。この遺産の価値を多くの人に知ってもらうこともその一つです。

同推進会議では、8月23日、東京都のホテルに首都圏在住の県出身者ら約100人を招いた交流会を開催しました。出席者は、沖ノ島で出土した数々の国宝が特別に展示された出光美術館・宗像大社国宝展を見学。交流会で、小川洋県知事は「来年度の推薦遺産になるよう学術的な検証を進める。これと併せて多くの人に本遺産の価値、保存の必要を知ってもらわなければならない。今後さらなる登録に向けた機運の醸成に努めたい」と述べました。

その後、本遺産を映像で詳しく説明し、出席者の多くは、本遺産の価値の高さ、歴史の深さにうなずきながら映像を観ていました。また、交流会では、宗像市・福津市で獲れた魚を使った料理を提供。海に畏敬の念を持ちながら、海と共に育まれた歴史、古代から宗像の神様を祭っている宗像の人々、大陸からの日本の玄関口などのキーワードで、さまざまな交流が実施されました。



会場一体となって世界遺産登録の機運を高めました(交流会の様子)

オガチマンスで世界遺産登録活動をPR

2014年11月15日

オガチマンスで世界遺産登録活動をPR

市と宗像・沖ノ島世界遺産市民の会では、9月をオガチマンス(世界遺産強調月間)として、さまざまなイベントを実施し、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録活動をPRしました。その一部を紹介します。



いかだで古代の釣川を感じる

今年初めて、釣川を手作りのいかだで下る「みあーれ川下り大会」を9月7日に開き、市内から10チーム39人が参加しました。釣川は入り海で、古代から近世にかけて舟での行き来がありました。参加者たちは、いかだを川下へ進めながら、大昔の釣川に思いをはせていました。

趣向を凝らしたさまざまないかだで順位を競いました。



1700人が感動「むなかた三女神記」

市民参加型ミュージカル・むなかた三女神記を9月14日、宗像ユリックス・イベントホールで公演しました。今年で6年目を迎えた公演では、宗像の子どもたち約30人が熱演。他にも、コーラス、バレエ、ダンス、太鼓のグループが劇に花を添える舞台となり、2回の公演で約1700人が観劇しました。

子どもたちの迫真の演技に感動

宗像の歴史を探して謎を解く

遊びの中で、宗像の歴史を肌で感じてもらおうと、9月21日、宗像大社辺津宮で体験型謎解き脱出イベント「宗像大社の秘宝を探せ！」を開催。約330人の参加者は、境内を歩き回りながら、古代から続く宗像の歴史を楽しく学んだようでした。

世界遺産への道72 ≪サグラダ・ファミリア主任彫刻家 外尾悦郎さんが世界遺産を語る≫

2014年12月15日

世界に日本を発信

サグラダ・ファミリア主任彫刻家

外尾悦郎さんが世界遺産を語る

日時:平成27年2月14日(土)

会場:宗像ユリックス・イベントホール

開場:13:00~

講演:14:00~15:00

外尾さんと語ろう:15:00~15:30

参加無料(事前申込必要)

市では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を次世代に伝えていくため、世界遺産登録を目指しています。登録活動を推進するため、彫刻家の外尾悦郎さんを招いて講演会を開催します。

外尾さんのこれまでの経験から、夢を描き未来に向かって進んでいくことや、故郷や日本人であることへの誇り、文化や歴史を次世代につないでいくことについて語ってまいります。

後半には、「外尾さんと語ろう」と題し、次世代を担う子どもたちを中心に、外尾さんに質問できる時間を設けます。

世界で活躍する外尾さんの話を通じて、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」について考えてみませんか。多くの参加を待っています。参加無料。全席自由。

講師・外尾悦郎さんのプロフィール

昭和28年生まれの福岡県出身。福岡県立福岡高校、京都市立芸術大学美術学部彫刻科を卒業。中学・高校定時制非常勤講師として勤務した後、25歳(1978年)のときにスペイン・バルセロナに渡る。多くの苦労を重ねながら、彫刻家として認められ、現在、サグラダ・ファミリアで主任彫刻家を務める。2012年には「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」に選ばれる。



彫刻家の外尾さん

サグラダ・ファミリア(聖家族教会)

サグラダ・ファミリアは、1883年から建築家のアントニ・ガウディが手がけた、バルセロナの象徴的な巨大建造物(予定高さ170m)。1882年に着工し、完成には300年かかるともいわれていましたが、先日、

2026年に完成予定であることが発表されました。外尾さんの手がけた「生誕の門」が2005年、世界遺産に登録されました。



サグラダ・ファミリア

申込方法

●定員 先着 1500人

●申込必要事項

参加者全員の(1)住所(2)氏名(3)年齢(4)電話番号(5)託児の有無(5カ月～6歳)(6)車椅子利用の有無

●申込締切日 平成27年1月23日(金)

●申込先 RKB毎日放送株式会社

▽ハガキ(住所不要) = 〒814-8585 /

RKBテレビ「外尾悦郎講演会」係あて * 申込締切日必着

▽ファックス 092(852)6660

▽メール <http://rkb.ne.jp> の中のメールから

* 当選者には、1月下旬ハガキで通知

■問い合わせ先

▽講演会について = 秘書政策課広報・報道担当 ☎(36)1055

▽世界遺産登録活動について = 世界遺産登録推進室 ☎(62)2617

RKB ホームページの QR コード



世界遺産への道73

《第5回宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産シンポジウム 沖ノ島と海を越えた古代の交流》

2015年01月15日

第5回

宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産シンポジウム 沖ノ島と海を越えた古代の交流

日程 2月14日(土)

時間 13:00～16:50(開場 12:30)

場所 九州国立博物館 ミュージアムホール (太宰府市石坂4-7-2)

参加無料

県、宗像市、福津市などで組織する「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が、シンポジウムを開催します。本資産と古代の対外交流との関わりについて専門家が講演し、パネルディスカッションも実施します。みなさんぜひ参加してください。

【スケジュール】

時間／内容

13:00～13:05 開会行事

13:05～13:35「宗像・沖ノ島と関連遺産群の紹介」／
西谷正さん(海の道むなかた館館長)

13:35～14:20「古墳時代の日韓関係と沖ノ島」／
禹在柄(ウ・ジェビヨン)さん
(韓国・忠南〈チュンナム〉大学校教授)

14:20～14:30 休憩

14:30～15:15「鏡からみた宗像・沖ノ島」／
辻田淳一郎さん(九州大学准教授)

15:15～16:00「宗像・沖ノ島からみた九州と倭王権」／
田中史生(ふみお)さん(関東学院大学教授)

16:00～16:10 休憩

16:10～16:50 パネル・ディスカッション／
コーディネーターは西谷正さん



●定員 先着 280人

●申込必要事項 参加者全員の(1)氏名(2)電話番号

●申込先 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」

世界遺産推進会議事務局(県世界遺産登録推進室)

▽電話 092(643)3162

▽ファクス 092(643)3163

▽メール sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp

講演／パネル・ディスカッション



西谷 正 (海の道むなかた館館長)



禹 在柄 (韓国・忠南大学校教授)



辻田 淳一郎 (九州大学准教授)



田中 史生 (関東学院大学教授)

世界遺産への道74 《平成29年の世界遺産登録に向けて 長崎の教会群に続け！》

2015年02月15日

宗像・沖ノ島と関連遺産群

長崎の教会群に続け！

日本政府は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産群」(以下教会群)を世界遺産に登録するための推薦書を、2月1日までにユネスコ世界遺産センターへ提出しました。世界文化遺産の推薦は、1カ国につき1年1件です。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、平成26年4月に初めて推薦書素案を文化庁に提出しましたが、教会群が選ばれました。

教会群の推薦書素案を最初に文化庁へ提出したのは平成24年度でしたが、この年は、昨年世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹関連遺産群」が、平成25年度は、今年登録の可否が審査される「明治日本の産業革命遺産群」が推薦されました。教会群は、3年目にしようやくユネスコ世界遺産委員会への切符を手にしたことになります。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、推薦書素案提出後も専門家と会議を重ねてきました。

より分かりやすい資産の価値証明の記載や、資産とその周辺環境の万全な保存管理を実施するための体制づくりなどを整え、より完成度の高い推薦書素案に仕上げ、今年3月、文化庁に再提出する予定です。

今年推薦を希望する遺産は、本遺産を含め、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」「金を中心とする佐渡鉱山の遺跡群」「百舌鳥(もず)・古市古墳群」の4件が見込まれます。今年秋に、日本政府による推薦が決定された場合、平成28年夏にユネスコ諮問機関であるイコモスによる現地視察を経て、同29年6月ごろに開かれるユネスコ世界遺産委員会で世界遺産登録の可否が決定されます。

今後、資産の価値の証明や保存管理を万全に整わせ、資産周辺の素晴らしい景観を、将来どのように守っていくかが登録に向けてのポイントとなります。

次の時代に伝えたい先人たちの思いと美しい宗像を

平成21年1月に暫定リスト入りを果たして以来、6年目を迎える「宗像・沖ノ島と関連遺産群」。

国宝8万点を含む資産の価値について、専門家会議では高い評価がされています。

このような中で、今、市民に求められていることは、その資産について、関心を持ち、誇りを持って大切に守っていくことです。

これまで沖ノ島は数々の禁忌で守られてきました。先人たちの努力に思いをはせ、それをどのように次の時代に伝えていくかが私たちに与えられた課題です。

インターネットで、世界中に情報が一瞬のうちに届く現在、便利さと合わせて環境の破壊も始まっています。市には、まだまだ美しい自然がたくさん残されています。今、世界遺産の登録活動を通じて、歴史、自然環境、景観など、これからの宗像について一緒に考えましょう。

平松秋子さん(宗像・沖ノ島世界遺産市民の会・保存管理ワーキング)

世界遺産にふさわしい景観をみんなで考えよう

ユネスコ世界遺産暫定リスト記載遺産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産である宗像大社辺津宮、中津宮、沖津宮遙拝所と沖ノ島(沖津宮)の周辺の景観は、貴重な文化遺産を守っていくために、これらの構成資産と一体となって守っていく必要があります。市では、将来にわたってどのようにこの素晴らしい

景観を守っていくかについての講演と意見交換会を開催。みなさんの意見を聞きながら世界遺産候補のあるまちの将来像を考えていきます。

●日時／場所

(1)大島地域の景観について＝3月7日(土)午後1時30分～同3時30分／大島コミュニティセンター

(2)玄海地域の景観について＝3月9日(月)午後6時～同8時／海の道むなかた館

●内容

いずれも、世界遺産の最新情報と景観の専門家による講話、意見交換

●定員 各先着 80 人

●申込締切日 2月27日(金)

●申込必要事項

【1】参加希望地域<(1)か(2)、両方>【2】住所【3】氏名【4】年齢【5】職業【6】電話番号

●申込先 世界遺産登録推進室

▽ハガキ＝〒811・3504／深田588

▽ファクス (62) 2601

世界遺産への道75 《古代宗像を舞台にした漫画ができました》

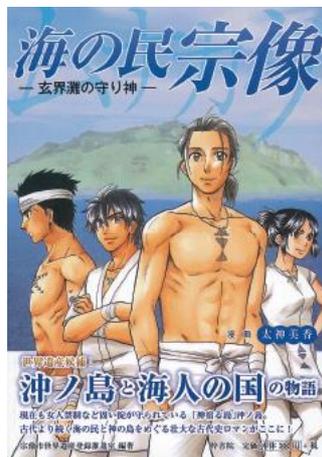
2015年03月15日

市では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録推進活動の一環として、漫画「海の民宗像～玄界灘の守り神～」を3月15日(日)に発刊しました。

この漫画は、稲作文化が大陸から伝わった弥生時代から、中国の唐に習って国家体制が成立した奈良時代までの宗像の様子を、遺跡や古墳、古事記・日本書紀などの資料を基に創作した物語です。

古代、ヤマト王権が勢力を拡大し、律令国家が成立するためには、命がけの航海をしてまでも大陸からの技術や文化を取り込むことが必要不可欠でした。宗像地域の人々が、玄界灘に浮かぶ沖ノ島を「神宿る島」として心から崇拝し、宗像を守り、大陸と日本との航海の担い手として、国家成立に重要な役割を果たしていたことが分かる内容となっています。

*この漫画は、市民図書館、市内小・中学校図書室、各コミセンで読むことができます。また、全国の書店やインターネット、海の道むなかた館ショップ、市役所売店(ハートループ)で購入できます(300円/税抜き)



漫画で楽しく古代宗像のことを知ることができます
みなさん、ぜひ読んでください